

森脇 健児 さん (タレント)



マラソン出走予定

洛南高校時代は陸上部に所属。100m 11秒02を記録し、インターハイにも出場している。

現在は、日本全国を飛び回り、テレビ・ラジオに幅広く活躍。月間250kmのトレーニングや

大会への参加等タレント活動と平行して、アスリートとしての活動にも力を入れている。

また、2010年4月からは、京都美山高等学校の「特別顧問」として特別授業を行っている。

Comment

今年も京都マラソンが開催されることに感謝です。我々ランナーは、この大会で世界の人々の憧れの都市、京都のど真ん中を走れるなんて夢心地です。42.195キロの一步一步を丁寧に噛み締めながらじゃないともったいないです。

昨年も走らせていただきましたが、京都の観光地はもちろん、素顔の京都が見れるコース設定になっているので、走っていて飽きないです。また、沿道の途切れることのない応援は京都人の気質を味わえますし、ボランティアさんの優しさも京都名物だと思います。

京都は歴史の街ですが、京都マラソンはまだ2年目というヨチヨチ赤ちゃんの大会です。

ランナーや沿道で応援して下さる方々、ボランティアさんやスタッフさん、皆でこの京都に新たな歴史を作り上げていきましょう。そして、何年後も何十年後も京都マラソンが続けられるようにしようではありませんか!

千葉 真子 さん (スポーツコメンテーター)



1976年京都府宇治市生まれ。立命館宇治高校から旭化成に入社し、96年アトランタ五輪1万メートルで5位入賞、97年アテネ世界選手権1万メートルでトラック初となる銅メダルを獲得するなど、日本女子長距離界のトップ選手として国際舞台で活躍。旭化成退社後は豊田自動織機に所属。佐倉アスリート倶楽部 小出義雄氏の指導を受け、03年パリ世界選手権マラソンで銅メダルに輝き、トラック、マラソン両種目のメダルを手にした。

05年2月からは、競技人生の集大成として自らの考えと計画のもとでマラソンに挑戦。

06年8月27日「2006北海道マラソン」を最後に第一線から退く決意を表明。

現在は「スポーツで世の中を元気にしたい」という目標をきっかけ、マラソン大会のゲストランナーを中心に講演会、メディアなど幅広く活動。また、千葉真子の「BEST SMILEランニングクラブ」を立ち上げ、市民ランナーの指導や普及活動も積極的に行っている。

Comment

京都マラソンに、ようこそおこしやす!

去年はエイドステーションにハツ橋が登場したり、仁和寺でのお坊さんからの声援が大人気でしたね。

桂川沿いや広沢池、鴨川沿いの京都らしい風景も醍醐味の一つです。

アップダウンの多いコースではありますが、東寺の五重塔の高さ分ぐらい(実際はそれ以上!)上ると思えば楽しめそう(笑)

…という事は、前半のオーバーペースには要注意です。

平安神宮の大鳥居目指して42.195km京都の旅を楽しんでくださいね☆



1987年3月神戸大学医学部を卒業し、国立大阪病院臨床研修医を経て大阪市立大学大学院医学研究科を修了。1996年1月には日本学術振興会特別研究員となる。2003年9月に奈良先端科学技術大学院大学遺伝子教育研究センター教授に就任。2008年1月に京都大学物質-細胞統合システム拠点iPS細胞研究センターセンター長に就任。2010年4月に京都大学iPS細胞研究所所長となり、2012年ノーベル生理学・医学賞を受賞、現在に至る。

Comment

昨年、京都マラソン完走にチャレンジし、iPS細胞研究基金へのご寄付をお願いさせていただいた際は、本当に大勢の方から応援していただき、また、目標金額をはるかに上回るご寄付をいただき、改めて御礼申し上げます。ご寄付に添えられたコメントを読むたびに涙が出そうになります。体調は万全ではありませんでしたが応援のおかげで実力以上の力が出せました。今年も応援大使として、皆様のご健闘をお祈りしています。研究はマラソンと同じく長い道のりですが、両者ともペース配分が大切。それぞれのゴールに向かって、ともに頑張りましょう。



ヘア駅伝出走

1963年沖縄県那覇市生まれ。20歳で会社創業。新システム開発により成長。

アメリカのIT事業視察の帰り、千葉県にて踏切事故により両下腿切断。高次脳機能障害(記憶障害)を負う。事故より20ヶ月間入院。会社の危機のため急遽退院。

2003年社会復帰。同時に再び社長に就任。会社再建に立ち向かう。

2004年11月両足義足でトリムマラソン3キロに初挑戦。

その後、ホノルルマラソン・バンクーバー・ゴールドコースト・NYシティ・ロンドンマラソン等海外のマラソンや各地の国内マラソンに出場し、いずれも完走。

2006年1月アルゼンチン・アコンカグア峰への登山に挑戦。その後、富士山一合目より登頂や、ツール・ド・おきなわ沖縄本島一周完走など活動を続けている。

2012年8月愛知県知多半島→鹿児島 自転車1,310キロ走破。

現在も「あきらめない習慣」を身に着けるためマラソン、登山を続けている。

株式会社ラシーマ代表取締役社長の責任を果たしつつ社会貢献活動として要請がある機関・学校には「講演会講師」として出向いている。

著書に「義足のランナー」(文芸社)がある。

第29回(2006年度)「琉球新報社会活動賞」受賞。

第20回(2007年度)「ランナーズ賞」受賞。

【主な著書】「義足のランナー」

Comment

「駅伝発祥の地・京都」で開催された第1回京都マラソンは私に様々な想いを蘇らせてくれました。両足に義足をつけて最初に一步を踏み出した時のこと、退院後初めて3キロのトリムマラソンを走りスタンドの歓声に迎えられたこと、そして42.195キロのホノルルマラソンを走り、誰もいないだろうと思っていたゴール地点で多くの人が待っていてくれたこと、いつも支えていただいていること…

憧れの駅伝コースをスタートして歴史的遺産を巡り、美しい自然にあと押しされてゴールの平安神宮大鳥居へと向かい走る…、この感動的なコースを走らせていただいている感謝…

応援して下さる姿、コースに身を乗り出さんばかりに手を振る姿、思い出すと胸が熱くなります。特設のフィニッシュゲートは大抵大会終了後は撤去されて無くなるのですが、この京都マラソンは“いつまでもなくなるらない”大鳥居であるため、このフィニッシュの瞬間はいつまでも余韻が残り、そのゴールラインに向かって走れる!と思うだけで何だか嬉しくなってきます。平安神宮の大鳥居は私だけでなく、この京都マラソンに参加されるランナーたちにも同じような感動を呼び起こしてくれるものと思います。

こうした素晴らしいコースを実現させるために陰で積み重ねられてきた京都市のあきらめない努力や働き、関係する多くの方の理解や協力により、今回も夢のようなコースを走らせていただけることに心より感謝しています。

京都マラソン2013でも「平安神宮の大鳥居」に向けて皆さんと共に、支えてくださっている方への感謝の気持ちをも込めて前進したいと思っています。



1972年、兵庫県生まれ。同志社大学大学院卒。大阪ガス所属。アトランタ、シドニー、アテネ、北京の4大会連続でオリンピックに出場。北京オリンピック4×100mリレーで銅メダルを獲得、陸上トラック競技日本男子初の快挙となった。2008年に現役引退。後進の指導に力を注ぐ。2011「京都スポーツの殿堂」入りし、子どもたちや市民にスポーツの魅力を伝える。

Comment

昨年に引き続き、京都マラソンに応援大使として参加することができ、大変嬉しく思います。スタート地点である西京極陸上競技場は、私にとって、練習を重ねてきた思い出深い場所。「陸上の聖地」とも言われるその場所を、15,000人もランナーが笑顔でスタートする光景は圧巻でした。

現役のときは、皆さんからの大きな声援が何度も私の背中を押してくれました。応援が与えるパワーを教えていただいた身として、恩返しの意味も込めて、今年も昨年以上のエールを送りたいと思います！

奥野 史子 さん (スポーツコメンテーター)



1972年、京都市生まれ。同志社大学大学院修了。幼少よりシンクロナイズドスイミングを始め、同志社大学在学中の92年バルセロナオリンピックのソロ、デュエットで銅メダルを獲得。現在はスポーツコメンテーターとしてテレビや講演会で活躍。3児の母。京都市教育委員。

Comment

昨年の第1回大会は走る人、応援する人、支える人、皆さん本当にいい顔をされていて、京都が一つになったと実感できた感動的な大会でした。山紫水明の京都の魅力を堪能できる変化に富んだコースは、決して楽ではなかったと思いますが、前回大会の完走率が95.4%だったことは驚きです。きっとスタッフの皆さんの笑顔や沿道の応援がランナーを後押ししたのでしょう。1万5千人のランナーを1万5千人のスタッフで支える京都マラソン。最後まであきらめない姿、一生懸命ランナーを励ます姿、安全に大会が終わるよう懸命に下支えをする姿。そんな大人の姿を子どもたちに示す機会でもある京都マラソンを今年も精一杯応援します！



兵庫県出身、現在は京都市在住。大学卒業後、OL経験を経て、知人の紹介でDJ・タレントへ。現在、一週間に、レギュラー7本、20時間以上の放送を持ち、キュートなボイスとハイテンショントークで、リスナーに「元気」を届けている。

仕事のハードスケジュールの中、向上心・探究心を常に持ち続け、2007年には韓国・延世(ヨンセ)大学に1ヶ月の語学留学。2008年4月から2年間は、母校である京都産業大学の法学院(大学院)に入学、2010年3月に修了。また、2010年4月からは、コミュニケーション能力をさらに深めようと、コーチングを勉強。

【現在出演中の番組】

α-STATION「CHUMMY TRAIN」「J-AC TOP40」

KBS京都(テレビ)「谷口イズム」他

Comment

第一回京都マラソン開催日の朝。大会を作り上げてきた人達、当日の運営スタッフ、関係者、そしてその日の主役である大会出場ランナー。大会に関わる人達の「期待」という名の緊張感がスタート地点には満ちあふれていました。その気持ちをまるで鏡のように写した青空。オープニングセレモニーを担当した私も、それまで味わったことのないような心地よい緊張と興奮に包まれたことを思い出します。沿道での応援や、ゴール地点で完走者を迎えたことなど、自分は走らなくても、充分参加した気分は味わうことができました。マラソンを楽しむとはこういうことなんだな…。人と人の気持ちがつながって京都マラソンは2013年早春、二回目を迎えます。去年とは違う感動を京都マラソンで味わいましょう!

原 邦夫 さん (スポーツドクター)



マラソン出走予定

1955年京都市生まれ。1981年京都府立医科大学を卒業。京都学際研究所附属病院などで勤務後、2003年に社会保険京都病院整形外科部長、2008年から同病院スポーツ整形外科センター長、京都府立医科大学臨床教授となり、現在に至る。日本整形外科専門医、日本オリンピック委員会強化スタッフ。

フィギュアスケート高橋大輔選手、女子マラソン野口みずき選手、京都サンガの選手など様々な種目で活躍するアスリートの治療を行うとともに、1992年からサッカー女子日本代表「なでしこジャパン」のチームドクターとして、2011年ドイツワールドカップ優勝、2012年ロンドンオリンピック銀メダル獲得など、選手を陰で支えている。

Comment

応援大使として京都マラソンを走れること大変うれしく思っています。昨年も走ることが出来ましたが、京都らしいコース設定には苦心されたことと思います。フルマラソンではサブスリーの経験がありますが、このコースはアップダウンのあるとても難しいコースだと感じました。制限時間も厳しいのに完走率が高かったのは、みなさん頑張って練習されていたことはもちろん、沿道の熱い応援によるものだと思います。今年も故障の予防のためにも十分な準備を行って、完走を目指してください。私も昨年のタイムを上回れるように頑張りたいと思っています。